



奈義町へのアクセス

- 京阪神方面から 中国自動車道、津山インター下車。国道53号線を鳥取市方面に約20分。
- 山陽方面から 岡山市から国道53号線を津山・鳥取市方面に約2時間。
- 山陰方面から 鳥取市から国道53号線を津山・岡山市方面に約1時間。

問い合わせ先

奈義町産業振興課

〒708-1392 岡山県勝田郡奈義町豊沢306-1

TEL 0868-36-4114

FAX 0868-36-6780

“奈義町”に関する情報は

奈義町 検索

<http://www.town.nagi.okayama.jp/>

Mount Nagi predominant Trackings Map 那岐山麓 トレッキングマップ



岡山県 奈義町

Mount Nagi and tourist facilities

那岐山と四季の景色

中国山地の秀峰、氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されている「那岐山(なぎさん)」(1,255m)は、四季折々の豊かな美しい自然に囲まれています。

春には新緑が芽吹き、小鳥のさえずりが聞こえ、夏になると緑はますます深くなり、また、秋には木々が繊りなす可憐な色に装いを変え、そして冬には雪化粧など、季節ごとに自然と調和した雄大な姿を見ることが出来、四季を通じて多くの登山者に愛されています。

頂上からの眺めは、何も遮るもののない360度の大パノラマです。天気の良い日には、西には大山、東に氷ノ山、北には日本海を、そして南には遠く四国の山々まで見渡すことが出来ます。



那岐山とは

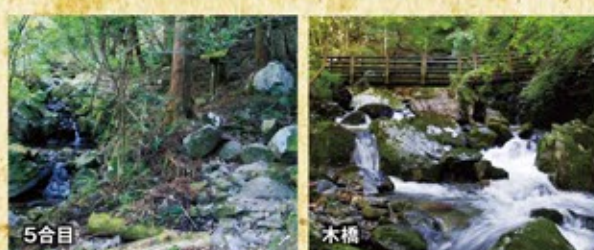
那岐山は古くは那岐の仙(なぎのせん)と呼ばれ、神話のイザナギ、イザナミがこの峰に君臨した伝説に由来するとも、また近隣の後山との高さ比べに負けて泣いたから「ナギノセン」になったとも言われています。この地方の方言は、山の事を“仙”と呼びます。ただの山でなく人偏を付けることで、親しみと、自然への深い畏敬の念を表したものと考えられています。

美作国一円から遠望でき、滝山、広戸仙を従えたかのようなその姿は人々の誇りであり、古くから神の山として信仰の対象になっており、この地域のシンボルとして多くの学校の校歌にも読み込まれています。

菩提寺Aコース



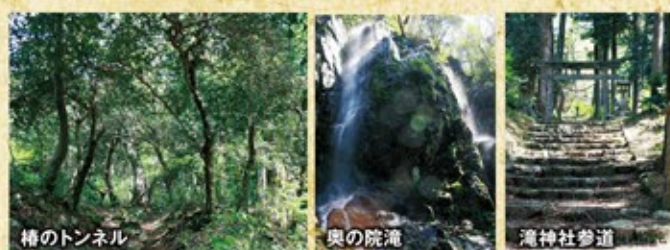
蛇淵Bコース



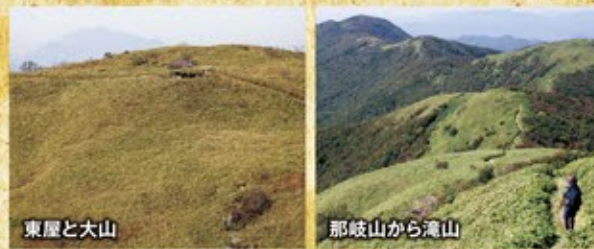
大神岩Cコース



滝山コース



縦走コース



中世の山城コース(遊歩道)



滝めぐりコース



自然豊かな那岐山には、四季を通じて楽しめる魅力がたくさんつまっています。

那岐山トレッキングの魅力

Mount Nagi Trekking map of season

春



夏

秋

マナーを守って 安全なトレッキングを

- 無理のない計画を立てましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。
- 動植物は大切にしましょう。
- 野生動物にエサを与えないようにしましょう。
- 装備はしっかり準備しましょう。
- 山は天候が変わりやすいので注意しましょう。



モデルコース紹介

WC トイレ

展望台

P 駐車場

菩提寺Aコース 片道約3.9km/約130分



菩提寺駐車場の西端に登山口の標識。ここからスタート。丸太階段の登山道を尾根づたいに登る。八巻城跡の標識があり、400mで城跡へ行ける。さらに登ると、1,010mのピークに着く。登山道はいったんグンと下がつて、6合目となり(ここから400mで蛇淵コースの5合目に下がることできる)。いよいよ本峰への上りとなる。鞍部から標高300mほど登ると、道はゆるやかなり主稜線に出る。西に縦走すると「那岐山」石造標識のある那岐山最高峰(1,255m)に着く。

蛇淵Bコース 片道約5.0km/約140分

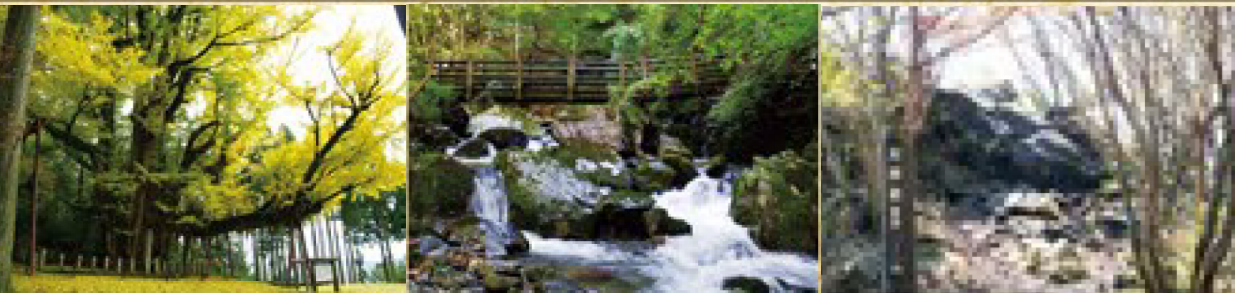


第1駐車場から林道を登り左側の第3駐車場。右側「蛇淵の滝」の標識を過ぎ、「登山道入り口(B-Cコース)」の標識から右登山道に入る。B-Cコースの分岐を右に進み、沢に入る木橋を渡り沢の東側を沿うように登っていく。途中沢を渡って尾根に取り付くところに5合目の標識がある。この手前から菩提寺コースの6合目に行くことができる。5合目を過ぎ少し登ると三叉路があり、200mで黒滝に行くことができる。さらに上を目指し登っていくと、主稜線をなす黒滝尾根に至り、菩提寺コースと合流する。黒滝尾根づたいにコースを西に縦走すると「那岐山」石造標識のある1,255mの那岐山山頂に着く。

大神岩Cコース 片道約4.7km/約140分



第1駐車場から林道を登り左側の第3駐車場。右側「蛇淵の滝」の標識を過ぎ、「登山道入り口(B-Cコース)」の標識から右登山道に入る。黒滝の中を進み林道に出る。林道を横切って進むと山道に入り標高800mの急な山道をジグザグに登り、落葉樹の林を抜けると大神岩(標高980m)に出る。落葉樹林の中の登山道を登り森林帯を抜けると、約10分で1,240mの3等三角点のあるなかなか那岐山のピークに着く。この三角点から北東に縦走すれば避難小屋を経て、この道跡の最高峰(約1,255m)に着く。



縦走コース 片道約3.1km/約90分



那岐山山頂(約1,255m)から西に向かうと避難小屋を経て標高1,240mの3等三角点につき、大神岩コースの分岐点となる。ここから望む滝山方向の眺めは雄大で、滝山に向かい縦走路はしばらく下り坂となる。縦走路が設けられた土倉峠には一面のササ原でヤマツツシの群落が点在している。このあたりの風景は岡山県側、鳥取県側ともに良好である。ここから滝山までの黒滝尾根上には小さな起伏のピークが4つ連なり、縦走コースは緩やかな登りと下りが連続する。縦走路を西に進み2つ目のピークに登ると東麓に着く。さらに滝山をめざし縦走路を西に進むと、ミズナラの低木林の中を通るようになり、やがて滝山コースとの分岐点に出合う。分岐点から西は緩い登り坂で、登りつめると滝山山頂(1,197m)である。

推奨コース 中世の山城コース(遊歩道) 片道約5.0km/約130分



04 大別当城跡 標高583m (おべつとうじょうせき)

大別当山の尾根伝いに残る中世の山城跡。南北に細長い山頂部に曲輪(くるわ)がいくつも並ぶ連郭式(れんかくしき)と呼ばれる構造で、堀切(ほりきり)も確認でき、東西は急峻な斜面で、自然の地形を巧みに利用している。また、龍のイムラ道跡(高円橋)は、城主、家臣団の暮らした跡と伝わっている。

05 吊り橋

車道で分断されている大別当山と八巻山を結ぶ吊り橋。延長は27m。

06 八巻城跡 標高724m (はちまきじょうせき)

なだらかな山頂の地形を利用した中世の山城跡。いくつかの曲輪(くるわ)や堀切(ほりきり)、井戸などが確認できる。史実の多くは不明だが、奈義町一帯を見渡せる眺望は、当時の戦略、防備の要だったことが考えられる。

07 名木ノ城跡 標高720m (なまきのじょうせき)

険阻な地形を利用した中世の山城跡。尾根を大きく断ち切って作られた堀切(ほりきり)があり、そこから南にはいくつかの曲輪(くるわ)を備え、小規模ながら堅固な城の姿がよく残っている。史実の多くは不明だが、中世の争乱期の緊張を現代に伝える遺構。

推奨コース 滝めぐりコース 片道1.3km/約45分



08 蛇淵の滝

登山口にある蛇淵渓谷は原生林に囲まれ轟を響かせている。地元で伝わる巨人伝説「三徳太郎(さんぶたろう)」の母である大蛇がこの淵の主であったとされている。

一の滝

三の滝

09 滝神社

滝山の中腹、絶壁下の洞窟の前に滝神社の本殿があり、左に約20mの雄滝が落ちている。厳冬期には滝が凍結し、見事な景観を見せてくれる。

10 大神岩

標高980mにある大きな岩。この岩には那岐山が山岳修行の場であった名残が、「大日如来」と「不動明王」という文字が刻んである。また、岩の上立つと広大な日本原高原の美しい眺めが展開する。

02 那岐山頂

山頂からの眺望がすばらしく、東に岡山県の最高峰・後山、西には大山が、空気の澄んだ天気の良い日には日本海や瀬戸内海の島々や遠く四国まで、360度の大パノラマ展望が楽しめる。南麓部には日本原高原の田園地帯を広く見下ろすことができる。



03 菩提寺のイチョウ

那岐山中腹にある山岳寺院・菩提寺の境内にあるイチョウで、岡山県を代表する巨樹。浄土宗の開祖・法然上人のお手植えとされており、国指定天然記念物で新日本名木100選にも選ばれている。(推定樹齢900年)



11 阿弥陀堂の大イチョウ

法然上人がこのイチョウの枝を杖にして菩提寺に登り、境内に挿したものが菩提寺のイチョウになったという伝説があり、地元では「観木」と言われている。平成25年に行ったDNA鑑定により、菩提寺のイチョウが分身であるという事が証明され、伝承の裏付けとなった。(推定樹齢1,000年)



12 屋敷の滝

馬桑川の源流にあり、水はとても冷たく澄んでいる。戦国の武将・延原弾正の屋敷跡があったところから屋敷の滝と言われており、深い緑に囲まれた中を約40mの高さから落ちる。



陸上自衛隊日本原演習場

※演習場内通行不可

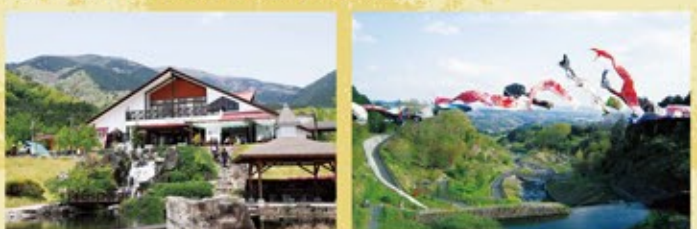
神仏ポイント
Shinto and Buddhism

那岐山には山岳宗教とのかかわりで、修験道の行者たちが刻したとされる文字岩が残っています。

| | | |
|-------|------|-------|
| 大日如来 | 不動明王 | 須佐之男命 |
| 天照大御神 | 奈義神 | 伊邪那岐命 |
| 伊邪那美命 | | |

13 那岐山麓山の駅と山野草公園

奈義町の恵まれた自然を体感できる山の駅は、コテージなどを完備した体験型リゾーツスポットで、地元の食材を活かした料理を楽しむレストランが人気。併設された山野草公園には那岐山麓遊歩道の入口があり、登山やトレッキングの拠点施設でもある。



14 現代美術館

建築家・磯崎新氏プロデュースのもと、作品と建築が一体となった空間的作品を常設している。美術館自体が那岐山麓の自然条件に基づいた軸線を持ち、喫茶室からは那岐山頂を望むことができる。

